

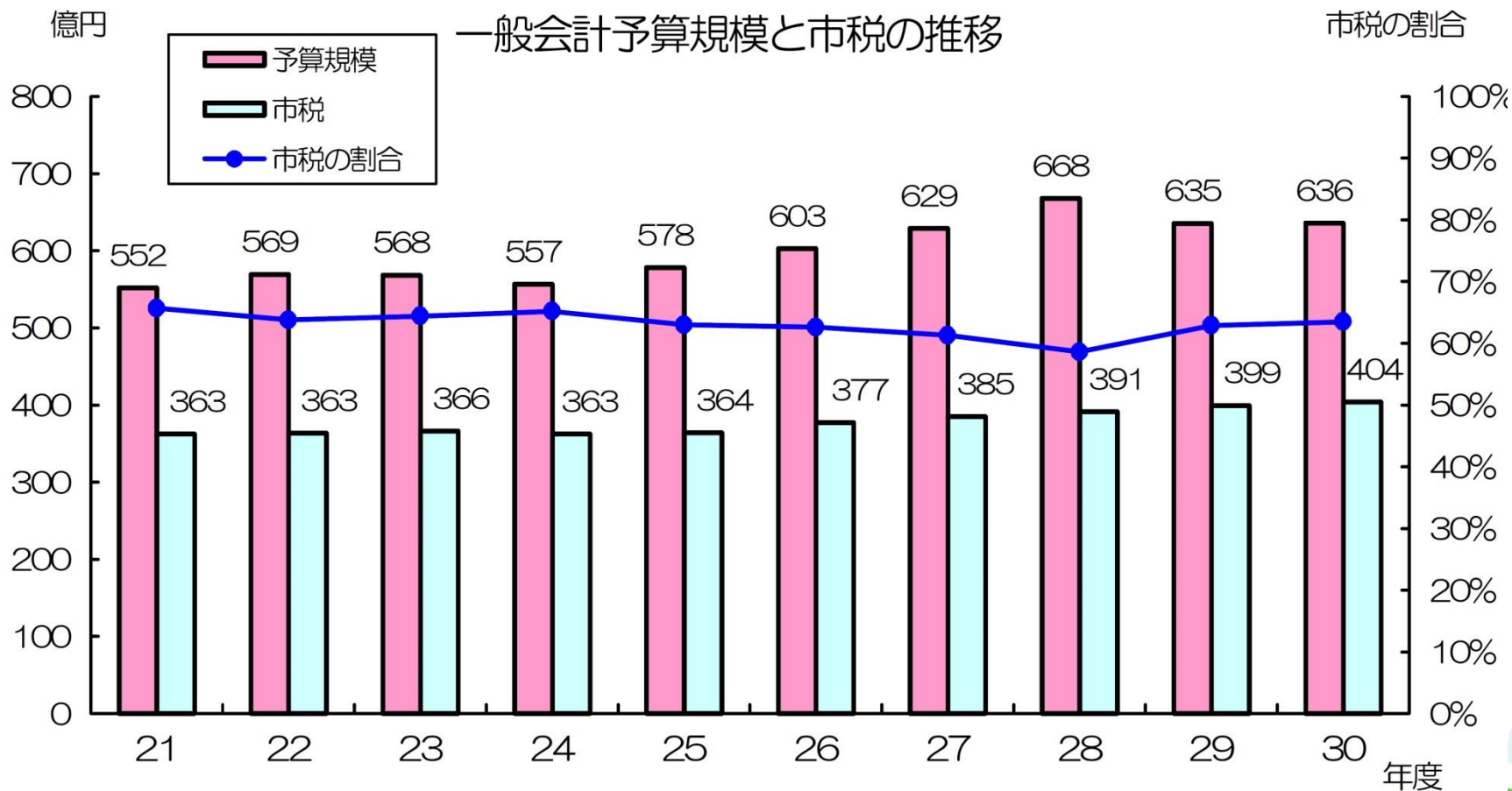
平成30年 7月1日  
第六期長期計画市民会議

# 武蔵野市における 財政の現状と見通し



# ● 一般会計予算と市税収入の推移

- ・市の財政は健全な状況を維持しています。
- ・持続可能な財政運営のため、時代の変化に対応した資源配分やさらなる経費縮減などの取り組みが必要です。

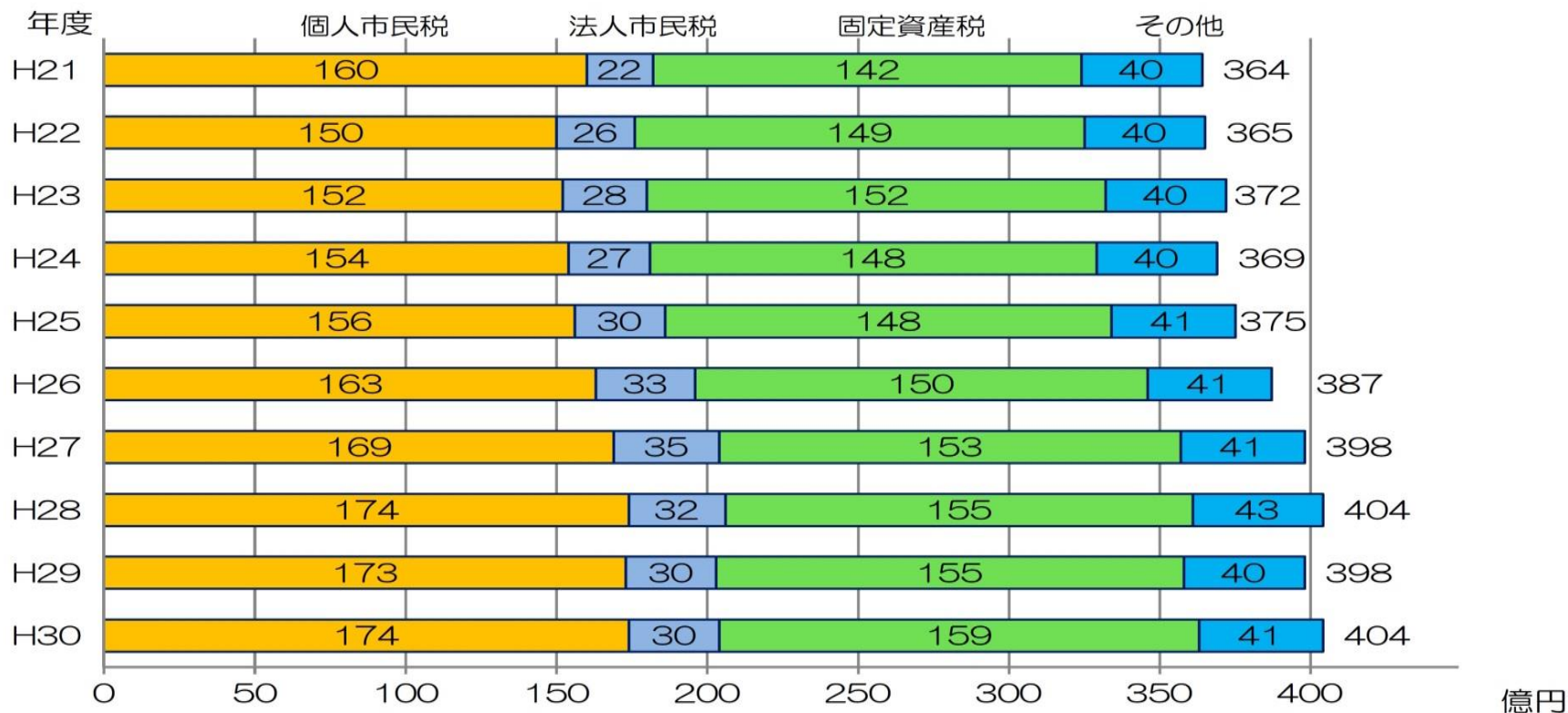


## 市税額の推移

○市税は、納税義務者の増加や、地価・新築家屋の状況などにより、近年は微増で推移している。

○ふるさと納税の影響を注視していく必要がある。

市税額の推移



※平成 28 年度までは決算額、平成 29 年度は決算見込額、平成 30 年度は予算額である。

# ・歳出の推移（性質別）

○待機児童対策やさまざまな福祉施策により扶助費が増加している。  
○投資的経費は、公共施設の建設や用地購入の有無により年度によって金額に差がある。

## 性質別の構成比の推移



※平成 28 年度までは決算額、平成 29 年度は決算見込額、平成 30 年度は予算額の構成比である。

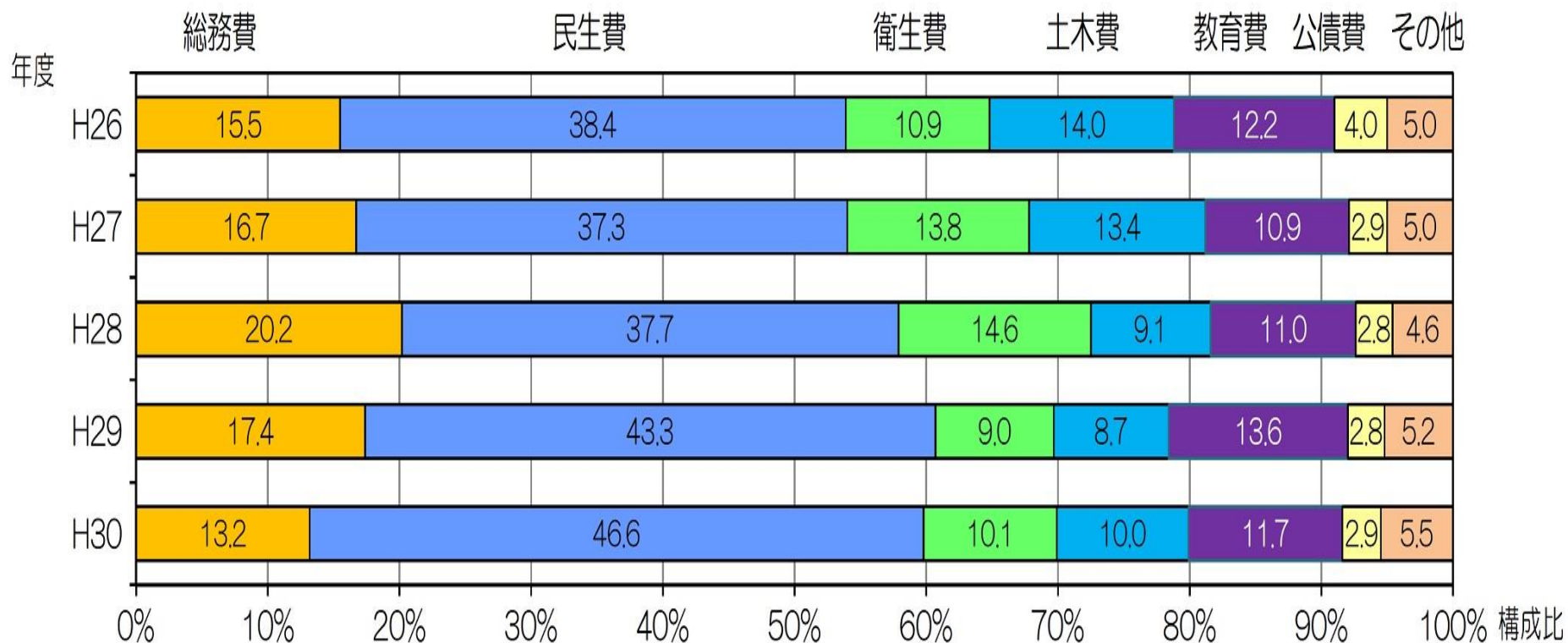
構成比



# ・歳出の推移（目的別）

○福祉関係の費用である民生費の割合が年々増加している。

## 目的別の構成比の推移



※平成 28 年度までは決算額、平成 29 年度は決算見込額、平成 30 年度は予算額の構成比である。

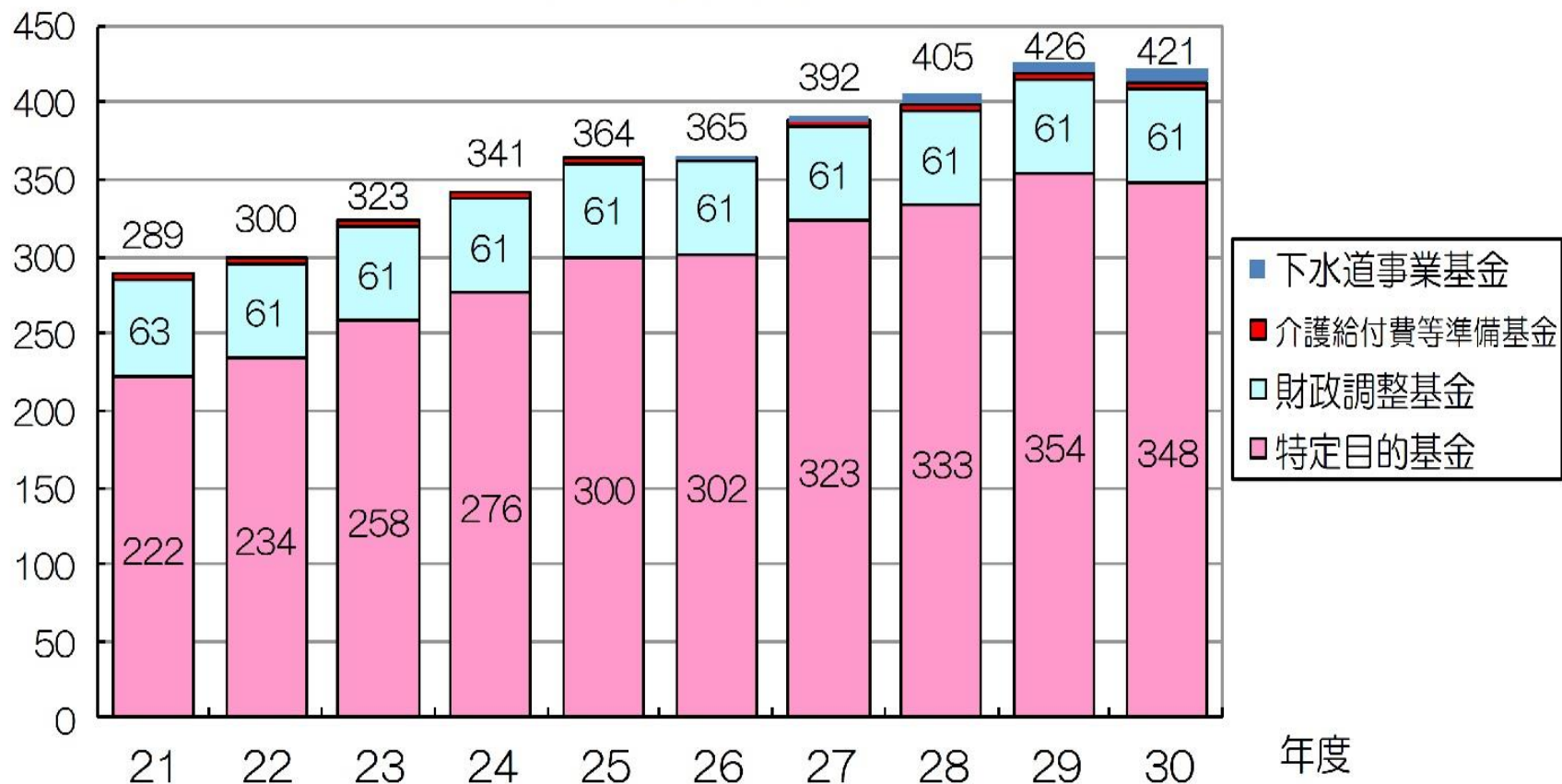


## ● 基金残高の推移

○急激な収収減や自然災害への備えのため、また公共施設整備などの特定目的のために、基金を積み立てている。

億円

基金の残高の推移



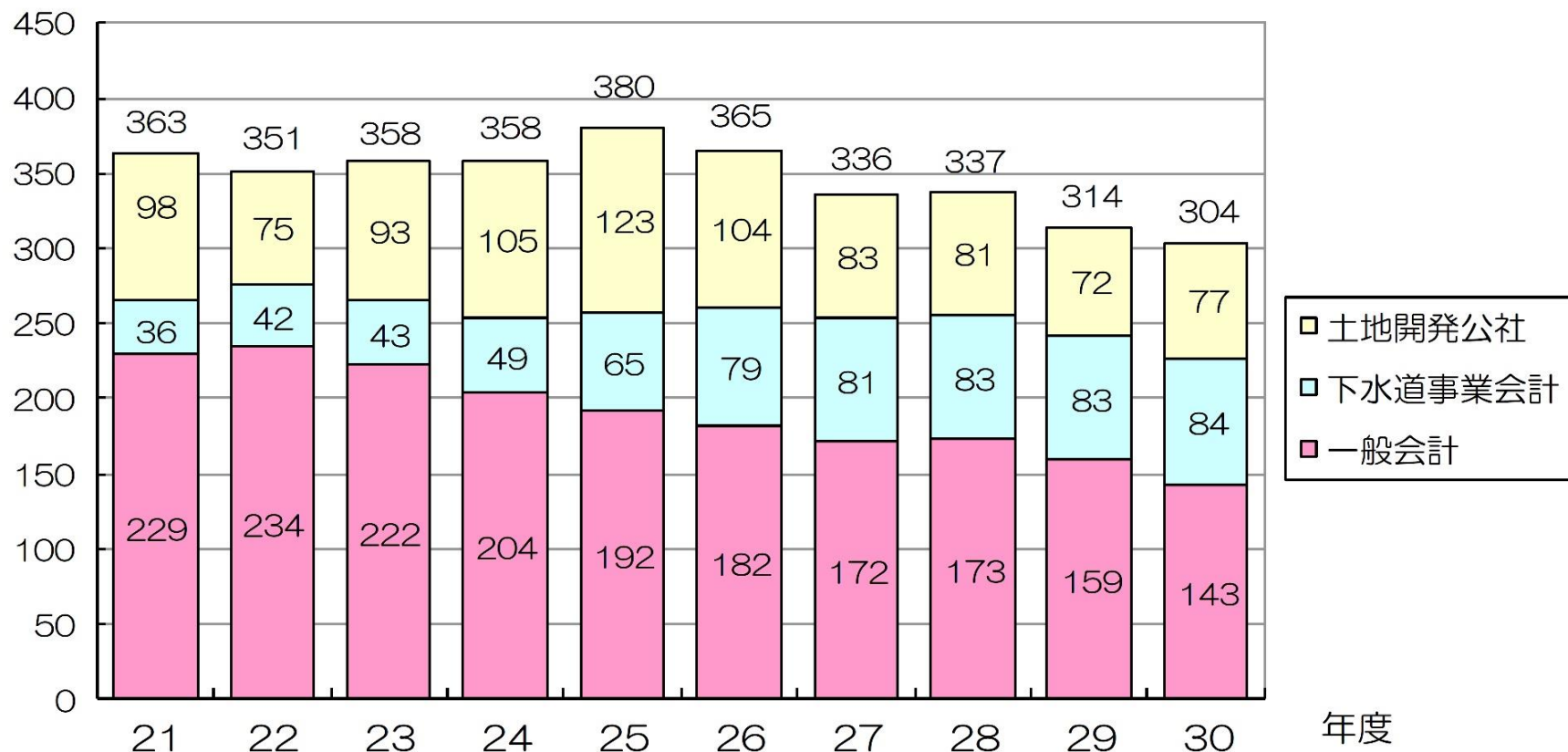
※平成28年度までは実績額、平成29・30年度は見込額である。

# ● 借入金残高の推移

○公共施設の建設費などの財源の一部は、施設を利用する将来世代の市民にも負担を求め、世代間の公平を保つ観点から、市債を発行して借入れを行い、最長40年かけて返済している。

億円

借入金の残高の推移



※平成28年度までは実績額、平成29・30年度は見込額である。

# ・高齡者支援・子育て支援・障害者支援の割合

(単位：千円)

年度	一般会計予算 総額	高齡者支援		子育て支援		障害者支援	
		予算額	割合	予算額	割合	予算額	割合
28	66,766,000	4,728,257	7.1%	15,243,950	22.8%	4,724,212	7.1%
29	63,548,000	4,610,646	7.3%	16,805,027	26.4%	5,091,579	8.0%
30	63,558,000	4,789,187	7.5%	18,066,952	28.4%	5,432,613	8.5%

- ・高齡者支援：老人福祉費
- ・子育て支援：児童対策費、青少年健全育成費、児童福祉費、母子保健事業費、教育総務費、小学校費、中学校費、特別支援教育費、学校給食費の計
- ・障害者支援：障害者福祉費、障害者福祉センター費の計  
(障害者福祉センター費はH29年度から障害者福祉費に統合)





# ・ 財政力指数などの他市比較

(平成28年度決算に基づく)

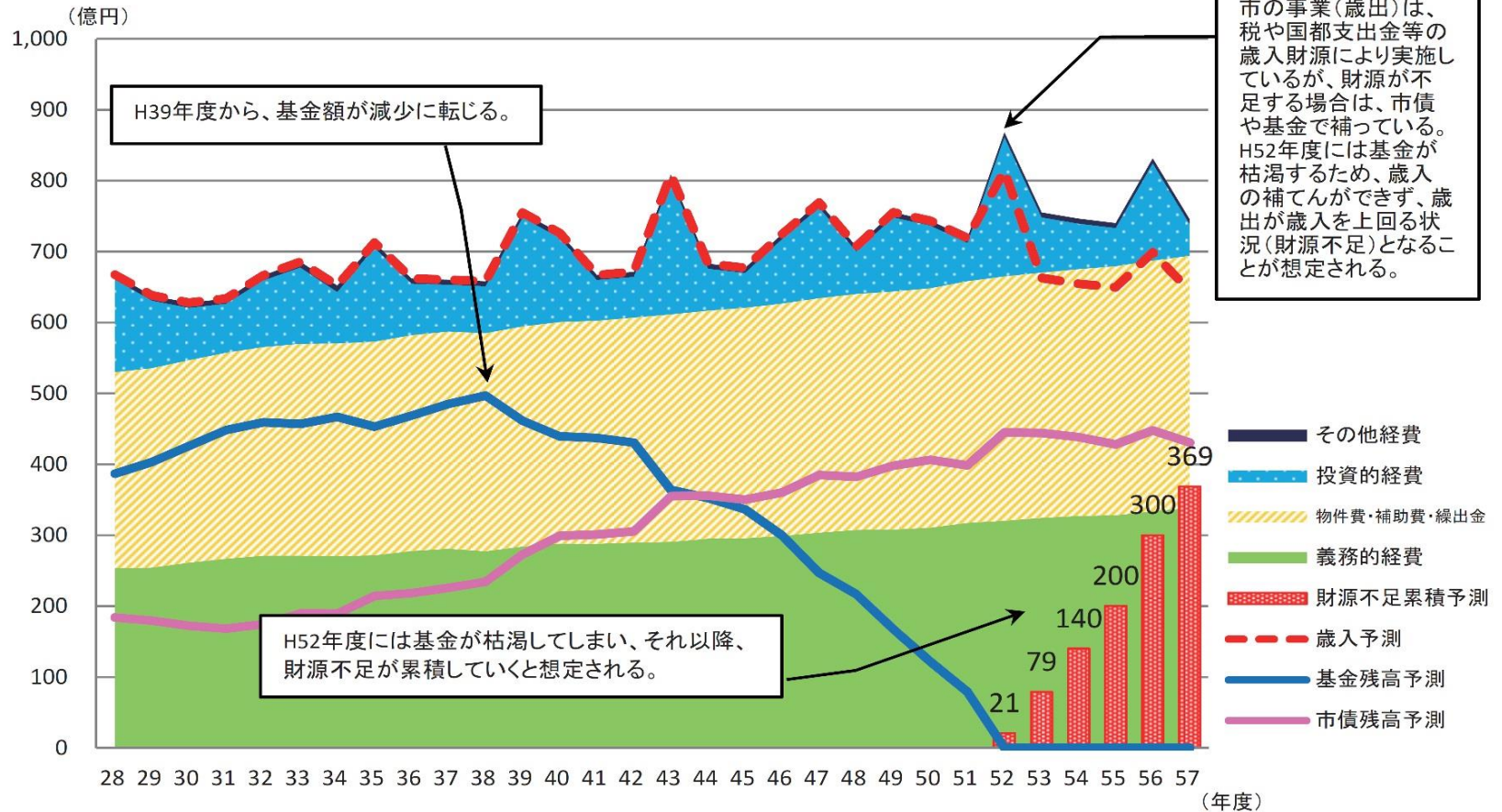
	武蔵野市	三鷹市	小金井市	西東京市
財政力指数	1.489	1.134	1.033	0.908
経常収支比率	80.8%	86.8%	92.7%	95.8%
将来負担比率	—	18.6%	18.0%	18.1%

- ・ 財政力指数＝基準財政収入額／基準財政需要額  
自治体の財政力を示す数値（過去3年間の平均値）。財政力指数が1を超えると地方交付税の不交付団体となる。
- ・ 経常収支比率＝（経常経費充当一般財源の額／経常一般財源総額）×100%  
自治体の財政構造の弾力性を判断する指標。人件費・扶助費・公債費など経常的な経費の財源の割合。  
80%を超えると弾力性が失われつつあると考えられている。
- ・ 将来負担比率：一般会計等が将来負担すべき実質的な負債から充当可能な財源を控除した将来負担見込額の標準財政規模に対する比率



# ● 長期財政見通し（H28～57年度）

- 公共施設やインフラを現状と同じ規模・仕様で更新していく場合、将来的に基金が減少・不足し、厳しい財政状況に陥る可能性がある。
- 重点施策への資源配分、経常経費縮減等で持続可能な財政運営が必要。



※上記予測は、特別会計及び水道事業会計を除く一般会計を対象とし、事務事業の見直しによる削減も見込んでいる。